

～ 遊休農地を出さない地域を目指して ～

所在：茅野市

取組主体：茅野市そば生産者協議会

取組開始時期：平成14年

取組分類：地域発意型

解消面積：3.2ha(H19～H24)

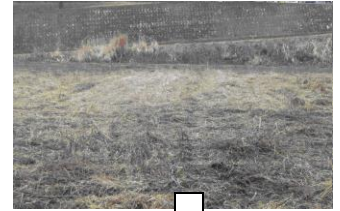
導入作物：ソバ

主な販売先：地産地消(新そば祭りで提供)

1. 取組のきっかけ・経緯

当市は、八ヶ岳西麓の夏季冷涼な気候を活かして野菜及び花き栽培を主体に行われてきた農村地帯であるが、農家の高齢化・後継者不足が課題となり、協議会で構成されている各集落営農組織において不耕作地の受け入れをし、ソバ栽培を主体とした耕作・保全管理を始めた。

また、ソバを当市の特産物として普及することを目的として、生産振興、品質向上及び販路安定を検討する場として当協議会の活動が始まった。



2. 取組内容(予定)

平成19年に発生した不耕作地を受け入れて、水稻栽培及びソバ栽培の取組を始めた。

それを契機に、現在まで4組織の営農組合が設立され、(うち2組織の農事組合法人が設立された。)他に3組織の任意組合とともにソバ栽培による遊休農地解消・発生防止に取り組み、平成24年度末時点において64.2haにまで栽培規模拡大が図られた。

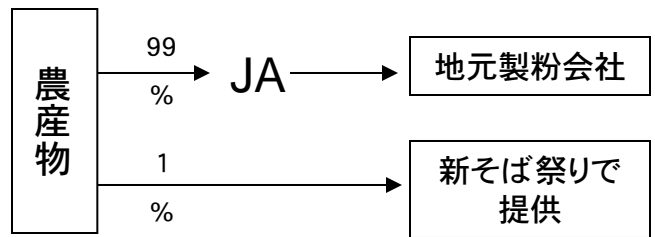
また、当協議会が主体となって7台所有している汎用コンバインを活用し、地区ごとに収穫面積を割り当ててソバの収穫作業を行っている。

さらに協議会内の横連携を図るため、定期的に情報交換及び研修会を開催している。

| | |
|-----------------|---------|
| 取組主体による導入作物栽培面積 | 64.2 ha |
| うち耕作放棄地の再生面積 | 3.2 ha |

3. 販売計画

現時点においてはJA系統出荷及び新そば祭りへの食材提供に留まっているが、価格が安定しない作物であるため、品質向上を視野に入れた新たな販路拡大を検討する必要がある。



4. 将来構想(今後の展開方針)

高齢化に伴う農業者数は更に減少する傾向にあり、遊休農地の解消には個人の力では限界がある。

そのため、集落営農推進及び組織化を更に進めることにより、そば栽培を中心に更なる組織活動の充実を図る必要がある。